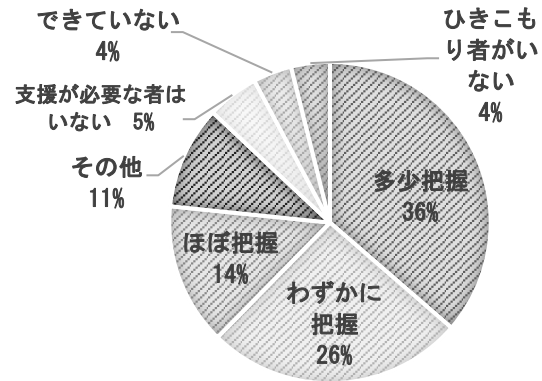


市町村に対するひきこもり状態の方の状況把握等に関する調査（R2.8実施）

令和2年8月、健康福祉部地域福祉課において全市町村を対象に実施し、全市町村から回答あり。

1. ひきこもり状態の方のうち、支援が必要な者の把握

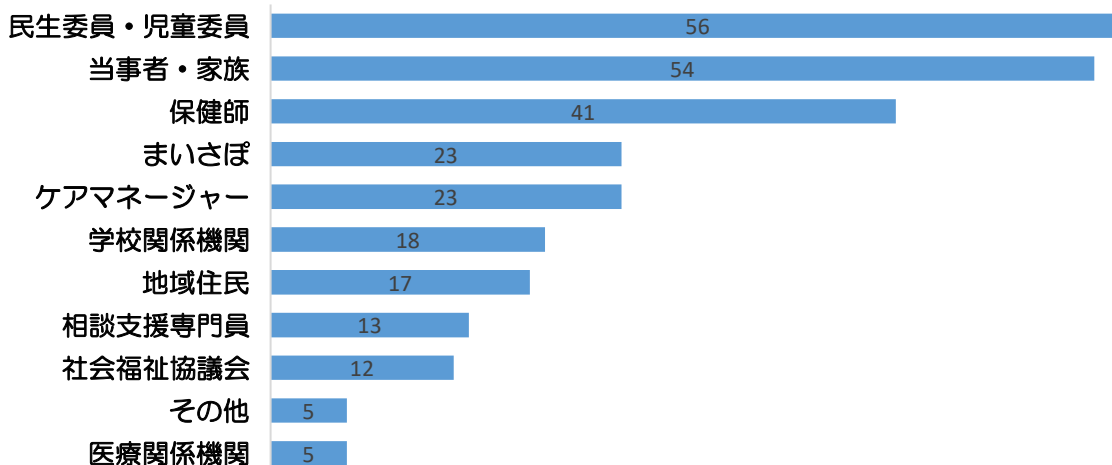
回答	市町村数
ひきこもり状態の者はいない	3
ほぼ（7～10割）把握できている	11
多少（3～6割）把握できている	28
わずかに（1～2割）把握できている	20
全く把握できていない	3
支援が必要な者はいない	4
その他	8
合計	77



【その他 回答】

- 関係機関等から散発的に情報提供・相談はあるが、本人・家族の拒否があったり、当事者に困り感がなかったり等で継続的な支援につながりづらい。
- 支援が必要な状況になったところで、引きこもりの現状に気づくことが多い。
- こちらに情報提供のある方のことは把握していますが、その割合がどのくらいか分かりません。
- 全体の人数の把握ができていないので割合は不明
- ひきこもり状態の方はいるが、支援が必要か把握できていない。
- ひきこもり状態の者は複数人把握しているが、総数の確定ができないので、割合は不明。
- 情報提供や相談により今後支援が必要な者はいる。相談のあったケースにおいて支援を通じ把握している。

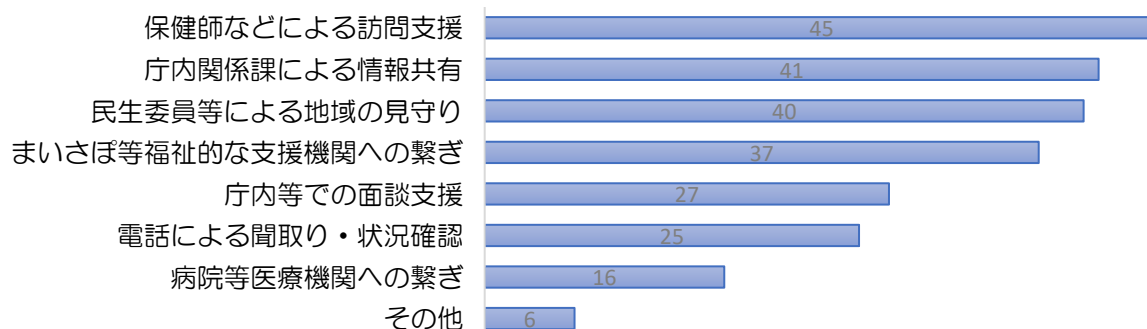
2. 支援が必要な方の情報はどこから寄せられるか（複数回答）



【その他 回答】

- 地域包括支援センター、障がい者総合支援センター（2市町村）
- 役場の他部署（収納対策・生活環境・農業関係等）
- 行政が行う相談等
- 市の18歳未満の支援をしている部署から

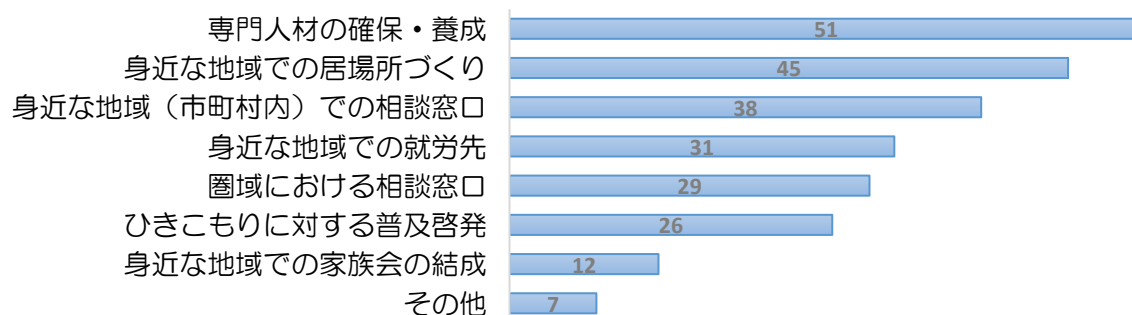
3 現在の支援の状況（複数回答）



【その他 回答】

- 相談者が面談などを希望した場合に対応する。
- 情報は得ているが、支援につなげていくためのきっかけがないため、アプローチできずにいる。
- ひきこもりサポーターの派遣
- 作業所やデイケア等への通所について働きかけているが、なかなか繋がらない。
- サボステへ繋いでいる
- 家族との定期相談、家族教室の開催

4 今後必要と考えられる支援策（複数回答）



【その他 回答】

- 病気や障害がなくても社会活動に段階的に参加できる訓練ができる場。
- 中学校不登校で卒業時につながり先のない生徒への支援
- 身近な地域の支援者の連携・情報共有の場
- 県による広報
- 見守り